

第2章

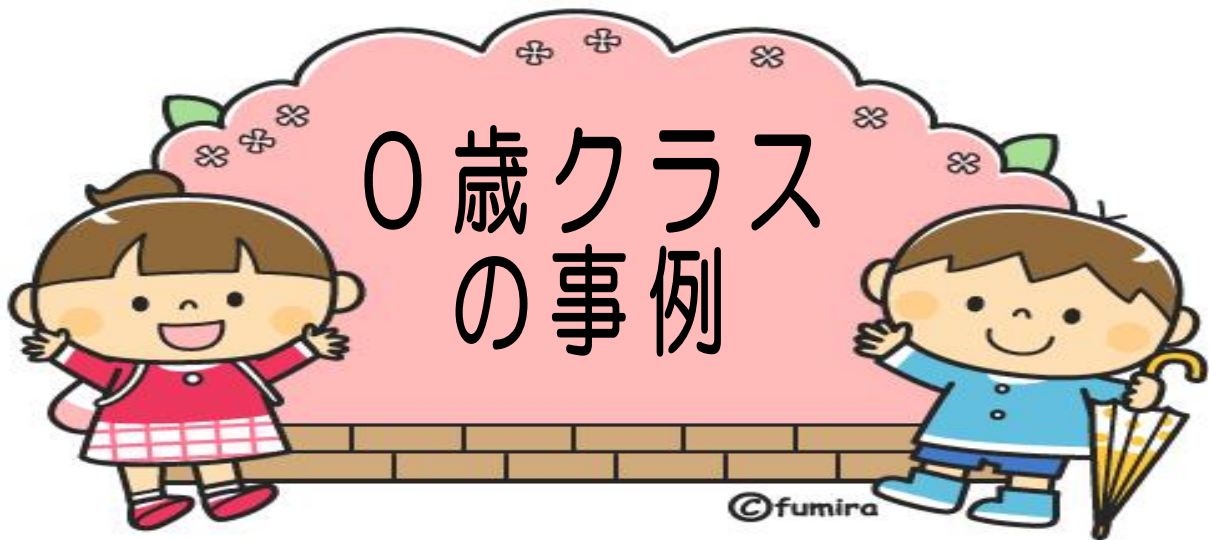
具体的な遊びの事例



◆事例一覧表

※ 感…「感じる・気付く力」 う…「うごく力」 考…「考える力」 や…「やりぬく力」 人…「人とかかわる力」
 ※ 5つの力の中で、特に育まれていると見られる力に、●を付けています。

クラス	タイトル	感	う	考	や	人
0歳クラスの事例	1 いい音出るでしょ？ 手作りマラカス		●			●
	2 入るかな		●	●	●	
	3 お尻からならスロープ降りられたよ！		●		●	●
	4 いたずらじゃないよ ～探索活動で～		●			●
	5 水遊び こぼこぼ	●		●		●
1歳クラスの事例	6 おんぶして…				●	●
	7 あれ？影ないね	●		●		●
	8 やった～！リンゴがとれたよ		●	●		●
	9 赤ちゃんキュウリ お兄ちゃんキュウリ	●		●		●
	10 でこぼこ橋って楽しいな！		●		●	●
2歳クラスの事例	11 積み木 ドキドキ		●	●	●	
	12 パン屋さんごっこ いらっしゃいませ！はいどうぞ			●		●
	13 見て！力持ちが、片付けます！		●			●
	14 キノコって おいしいね！	●		●		●
	15 お水、冷たいね	●		●		●
	16 みんな大好き 家族だよ！	●		●		●
	17 プール楽しいね		●		●	●
	18 虹が 出とるよ	●		●		●
3歳クラスの事例	19 鳴子作ったよ！踊ったよ！	●		●		●
	20 どうしたの？大丈夫??	●				●
	21 だるまにどっぷり浸かる	●			●	
	22 なんか飛んできた ～自然とのかかわり～	●		●		●
	23 カエル、まって！まって！	●	●			
	24 うんてい はしっこまでやってみたい	●		●	●	
	25 柚子の実 転がった！	●		●		
	26 痛い？テープ貼ったら治るよ ～異年齢のかかわり～			●	●	●
	27 砂遊びで カパッとできた	●		●	●	●
	28 泣かしちゃったけどなんとかしたい					●
	29 傘の中って楽しいな！	●				●
4歳クラスの事例	30 私の長靴！！			●	●	
	31 ラッパができた！			●	●	
	32 幼虫の変身！	●		●		●
	33 こうやると、紙飛行機よく飛ばよ	●		●		●
	34 カニ歩きだったら登れるよ		●		●	
	35 ニンジンの葉っぱは、ニンジンの味の匂い ～地域との交流～	●		●		●
	36 水を入れてみると…	●		●		
5歳クラスの事例	37 もう一本、またもう一本…水はうまく流れるかな	●		●	●	
	38 負けてばかりはいや		●	●		●
	39 こんな形の氷ができたよ	●		●		
	40 ぶにぶに かたかた どろ遊び	●		●		●
	41 海賊ごっこ 船が動いた！			●	●	●
	42 やっとひけた！ドッジボールのコート	●		●	●	
	43 どうやったらヤシャブシとれるかな			●	●	●
	44 やったー！フェンスが立った！			●	●	●
	45 ダンゴムシの赤ちゃんが生まれた！	●		●		●
	46 ピカピカのどろ団子	●		●	●	●
	47 どうやったら 粘土のみかんの木は 立つのかなあ			●	●	●
	48 川がコーヒー牛乳みたい	●		●		
	49 ケイドロしよう		●	●		●
	50 相談ジャンケン			●	●	●
51 お楽しみ会ごっこ それ、いいね			●	●	●	



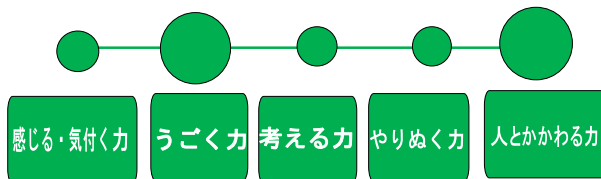
	感じる・ 気付く力	うごく力	考える力	やいぬく力	人とかか わる力
1 いい音出るでしょ？ 手作りマラカス		●			●
2 入るかな		●	●	●	
3 お尻からならスロープ降りられたよ！		●		●	●
4 いたずらじゃないよ ～探索活動で～		●			●
5 水遊び こぼこぼ	●		●		●

※ 乳児に育まれている力は未分化であり、「感じる・気付く力」や「人とかかわる力」については、本事例集の作成に当たっては、全ての力の前提にあるものと考え、整理をしたところです。したがって、0～2歳児クラスの事例では、特に顕著に子供の姿として表れているところのみ●を示しています。

事例1

0歳8か月
(0歳クラス)

いい音出るでしょ？手作りマラカス



【活動の様子】

お座りが安定してきたA児は、音の出るおもちゃが大好きである。ペットボトルにビーズを入れた手作りのマラカスを見付けると、マラカスにハイハイで向かっていき、お座りして持ち直すと、シャカシャカとふって、「あっあっ」と声を上げながら機嫌良く遊んでいる。

最近はものを打ち合わせて遊ぶことがお気に入りようで、身近にあるものを両手で持って体の前で打ち合わせ、いろんな響きを楽しんでいる。

今日は手作りマラカスと鈴のおもちゃを持って、笑顔でシャラシャラと鈴を鳴らしたり、ポンポンと打ち合わせたりしている。

保育者が見ていることにも気付かず、A児はしばらくの間、音を出すことを楽しんでいる。視線に気付いたのか、A児が保育者を見てニコッと笑う。「Aちゃん、いい音してますねえ」と保育者が手を叩いてほめると、満足そうな顔をして、ポンポンと打ち合わせて見せてくれる。

「すごい！！ほんとに上手ね」と声をかけると、保育者を得意気に見てニコッと笑った後、ますます大きな音をさせながら両手のおもちゃを打ち鳴らす。

【遊びの中で育まれている力】

- お気に入りのおもちゃに向かって移動する。【うごく力】
- 音が出る嬉しさを喃語で表現する。

お座りが出来るようになると、視線が高くなり、視野も広がってくる。また、体幹が安定してくると、両手が自由に動かせるようになるので、手を使って遊べるものを用意してみた。

- 体の前で、両手を動かしながら振る。【うごく力】

音の違いを楽しめるように、ボトルに入れる素材を変えられるようにしてみた。

- 両手を連動させて動かしたり、片手ずつ動かしたり、もの同ものを打ち合わせたりしながら、音を出して楽しむ。【うごく力】

手作りマラカスは、フタが外れ中身が出ると誤飲の可能性もあるので、定期的にしっかり締まっているか点検しておく。

音を出すことに集中しているので、A児の楽しそうな様子を見守ることにする。

- 獲得している動きを保育者に伝えようと、保育者の方を見る。【人とかかわる力】

いい音が出ていることを褒められ、喜びを感じている様子。続けてやってみようとする意欲を引き出すために、さらに言葉をかけてみよう。

- 保育者の言葉や表情を確かめ、さらに楽しみながら意欲的に遊ぶ。



この遊びの中での学びを支えたもの

【子供の発達段階ごとの特徴の理解】

この時期は、子供の成長段階が著しく変化する時期である。発達の道筋を正確に理解し、見通しを持って保育に当たることで、子供の継続性ある望ましい発達が期待される。

【発達段階と興味に即したおもちゃの準備】

座る、手で握る、ものを打ち合わすなどができるようになるこの発達段階において、ペットボトルの大きさを考えたり、握りやすい持ち手の工夫をしたりした。振ると音が出るのが面白い、入れる素材を変えると音が違うといった、働きかけることで反応が返ってくるマラカスを準備したことで、子供は興味を持ち、「自ら欲しいものに向かってハイハイで進む」など、様々な動きを獲得していくことができた。

【保育者との信頼関係】

保育者との信頼関係・応答的關係があるからこそ、意欲的に遊びを繰り返している。またそのことが、動きの確立や獲得につながっている。

先生方へ…



ハイハイで移動できるようになり、自分から対象物に働きかけることが面白いと感じることで、子供はどんどん探索範囲を広げていきます。

この時期は、引っ張る、つまむ、握る、出し入れする、打ち合わせることのできるおもちゃを豊富にそろえ、子供がおもちゃを選び、手に持って主体的に遊ぶことができるような環境構成を工夫することが大切になります。この楽しい遊びの中で、指やてのひら、腕の動きなど、身体の発達が促されていくのです。

お座りが安定し、両手が自由に使えるようになったA児は、いろいろなものや楽器を振ったり打ち合わせたりして、響きや音を楽しんだり、ものの性質に気付いたりしていきます。また、見守っていた保育者が視線を合わせ楽しさや発見に共感すると、A児は満足し、態度や表情で喜びを伝えてきました。伝えたい保育者に、工夫しながら伝えた思いを受け止めてもらえたという嬉しい感情と、優しい言葉が返ってくるという保育者との応答的關係が、より豊かな身体表現につながっていくのだと思います。

事例2

1歳1か月
(0歳クラス)

入るかな

【活動の様子】

A児は、伝い歩きが出来るようになり、行動範囲も広がり、何でも手で触って口に運び、なめては出して、手に取り見つめ、確かめている。親指と人差し指で、小さなものをつまむこともとても上手になっている。

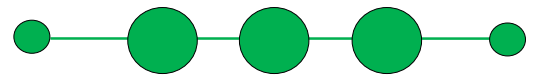
A児は朝、保育室に入るやいなや、ハイハイでおもちゃが置いてあるお気に入りの棚を目指して向かっていくのがこのところの日課となっている。その中でも、チェーンリング入れに興味・関心を持ち、チェーンを手でもみながらその感触を楽しんでいる。

チェーンの端の短いリングを、右手の親指と人差し指でつまんでしっかり手の中に握り込み、左手で容器を持ち、中央の穴の中へ一生懸命に入れようとしている。

入れることができると、保育者の顔を見て「あっ、あっ」と言いながら、中のチェーンを出そうと容器のフタを外そうとする。保育者が一緒に手伝ってフタが外れると、A児はすぐに容器をひっくり返して、チェーンを取り出す。

最初は短いチェーンを入れていたが、上手に何度も入るようになると、今度は長いチェーンに挑戦し始める。

中央の穴とチェーンの端に集中して、夢中になって入れている。保育者の顔を見ながら、何度も繰り返す。「出来たね、すごいね」としっかり褒めると、会心の笑顔を見せる。



感じる・気付く力

うごく力

考える力

やりぬく力

人とかかわる力

【遊びの中で育まれている力】

- 手に取り、口に運んで舌の感触で確かめている。
- 指先の動きが発達する。【うごく力】

手先の巧緻性が発達してきている。ものをつまんで確かめている、A児の探索心に共感していく。

- 好きな場所でいつもの好きな遊びを楽しむ。

安心感の中で、伸び伸びと遊べるように、時間を確保し、A児の興味・関心に寄り添いたい。

- 工夫しながら、容器の中に入れたり容器から出したりを繰り返す。【考える力】

目と手の協応動作ができるようになっている。出来る喜びに共感しながら見守ることとする。

- 長いチェーンは、チェーンが揺れてしまい、穴に入れることが難しく、何度も繰り返し挑戦する。【やりぬく力】

何度も繰り返しているA児の表情から、出来たことに喜びを感じていることが分かる。達成できた喜びに表情や言葉で共感することで、安心感を持ってどんどん挑戦して行ってほしい。



この遊びの中での学びを支えたもの

【好きな遊びをじっくりと楽しむ時間の確保】

日々の保育の中で、自らやりたい遊びを選んでじっくりと楽しむことができる時間を確保することにより、主体性が育まれる。目と手の協応動作で、チェーンリングを入れたり出したりできるようになるまでの過程を通して、考えを確かめながら、やり遂げていく力が培われている。

【子供の成長，発達に寄り添った環境】

一人一人の興味，関心に寄り添い，保育者が子供の気持ちに共感しながら，それぞれの年齢発達に応じた遊び環境を整えたことが，集中して遊ぶ意欲を育んだ。

先生方へ…



お座りが安定して，ハイハイも活発になってくると，子供の興味や関心も広がり，触る，つかむ，転がす，たたくなどして，自由に両手を使って，ものと関わるようになります。

そして，伝い歩きができるようになると，その興味や関心はさらに広がり，ものと深く関わるようになってきます。ティッシュペーパーを繰り返し引っ張り出し，ペーパーが無くなるまで引っ張り続けるなど，その行為そのものが子供にとっては面白い遊びなのです。

この時，子供の発達にふさわしい玩具やものが身近に置かれていることで，うごく力は大きく育まれていきます。

この事例ではチェーンリングに興味を持ち，容器に入れることを何度も繰り返しています。その繰り返しの中で，チェーンリングの先にある容器の入り口とリングを持つ手の位置のバランスを取り，入れるという行為が可能になってきました。ここで大切な保育者の援助は，遊びを見守り，身振り・しぐさ・発声で表す子供の要求に応じて，「もう一回するの?」，「できたね」などと，子供の気持ちを言葉に置き換えてつ，共に遊びの繰り返しを楽しむことです。

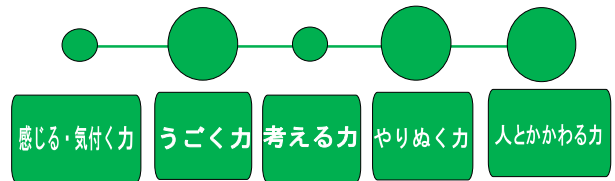
このものとの関わりを保育者と共有する遊びを丁寧に重ねる中で，子供の主体的な姿につながる興味や関心，好奇心を豊かに育みたいものです。



事例3

1歳1か月
(0歳クラス)

お尻からならスロープ降りられたよ！



【活動の様子】

保育室の室内ロフトは、どの時間帯でも自由に遊ぶことができる。発達段階によって、歩いたり、ハイハイしたりしてスロープを上り、その先のスペースで壁に背中をあずけて絵本を読んだり、上がって手を伸ばして保育者にタッチを求めたりと心地よい空間になっている。

最近ますます活発になってきたA児は、ハイハイで坂を一気に上っていく。続いて前向きで下りようとしたが、進むことができず動かなくなる。

「Aちゃん降りられない？どうする？」と保育者が声をかけると、抱っこして降ろしてというように、坂の上で保育者に両手を差し出してくる。抱っこして降ろすと、また上っていき、頂上のスペースから下りのスロープを降りようとしては、また同じよう保育者に手を差し出してくる。

このことを何度も繰り返しているうち、A児は、お尻からそろそろとスロープを降り始める。後ろ向きのまま、ゆっくりと最後まで降り終わると、達成感に満ちた笑顔で保育者の方を向く。

「すごいね。上手に降りられたね」と笑顔で声をかけると、A児は得意気な表情で笑顔を返す。

そして、時折保育者の視線を確かめながら、前向きに上っていったら、お尻からそろそろと降りる活動を繰り返す。

【遊びの中で育まれている力】

発達段階の異なる子供たちの遊びが引き出せる、時間と空間を用意する。

- 腰高ハイハイができるようになり、視界が広がったことから、自分の行きたいところに素早く移動できるようになる。【うごく力】

前向きで下りることを怖がっているように見えた。安心感を与え、次の行動を促すように、A児に声をかけてみよう。

- 下に降りたいけれど不安な思いを、両手を伸ばす仕草で保育者に伝え、手助けを要求する。【人とかわる力】

頂上まで行って、「降りられるかな？」と下を見た後に、保育者に抱っこして下ろしてもらうことが遊びになっている。この遊びに応答的に関わることにしよう。

- 何度も繰り返し挑戦することで、自分で降りることができるようになった達成感を保育者に伝える。【やりぬく力】【人とかわる力】

A児が、自力でスロープを降りることができたことを言葉にして伝え、達成感に共感していく。

- 獲得した動作を繰り返し、上手に降りることができる。【うごく力】
- 動作の上達の喜びを保育者に伝える。【人とかわる力】



この遊びの中での学びを支えたもの

【発達段階に応じた環境構成】

月齢や発達段階によって子供の行動は全く異なる。全ての子供が安心して安全に活動できるような環境を整えることによって、A児も安定して挑戦を繰り返すことができた。

【保育者との信頼関係】

新しい動作を獲得する過程の中で、不安を受け止める保育者の存在や、繰り返しの要求に応える保育者との信頼関係・応答的関係が、やりぬく力の基盤になっている。

【空間・時間の確保】

ロフトが自由に遊べる心地よい空間になっていたこと、じっくりと遊びを繰り返す時間が確保されたことで、A児はやりたいことを達成することができた。

先生方へ…



この時期の子供たちは、遊び慣れた心地よい空間で、面白いことを探索しながら、気に入った遊びを繰り返します。A児は、腰高ハイハイで一気にスロープを上っていくと、降りることができなくなるにも関わらず、何度も繰り返してスロープを上っています。それは、見守り続けてくれる保育者に、毎回抱っこして降ろしてもらえる喜びが、新たな楽しみとなったからだと考えます。

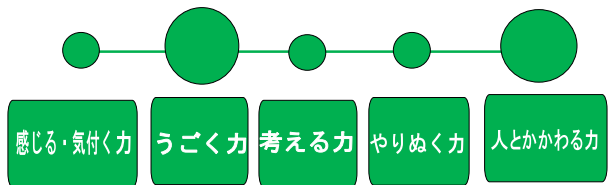
徐々にスロープの高さに慣れ、緊張がほぐれると、A児は、自ら降りてみようとして挑戦するようになりました。達成できるとその喜びを、得意げな笑顔で保育者に伝えています。子供の様子を見守り、受け止め続けた保育者の支えがあったからこそ、「スロープを自分で降りてみたい」という子供の意欲が引き出されたのだと思います。保育者に支えられた体験は、愛着形成を育み、保育者の存在が、次の挑戦意欲につながっていくのです。

言うまでもなく、保育者は、子供の興味や関心を尊重しつつ、安全への細かい配慮を忘れないようにする必要があります。

事例4

1歳1か月
(0歳クラス)

いたずらじゃないよ～探索活動で～



【活動の様子】

11か月頃から歩き始め、今はトコトコと歩行が完成したA児は、歩いて行きたいところに行けるようになったことが嬉しくて仕方がない様子である。

散歩も大好きで、保育室で遊んでいても、部屋のドアが開くと、すぐにドアに向かって歩き出し始めている。

今は、カゴの中にあるものを全部取り出す遊びに夢中で、保育室にあるカゴを自分で引っ張り出しては、中のおもちゃや絵本を一個ずつ手でつかみ出している。全部取り出すと、満足そうに保育者を振り返り、ニコッと笑う。

「いっぱい出したね」と微笑み返すと、A児も保育者の顔を見てニコッと笑う。

【遊びの中で育まれている力】

- 歩行が完成して、行きたいところに行く。【うごく力】

行動範囲が一気に広がるが、まだ体のバランスが取りづらく、危険を認識する力が未発達なので、安全面には十分留意する。

- 探索活動が盛んになり、見付けること、触れることの繰り返しを通して、新たなことに気付いている。
- カゴの中のものを取り出す遊びを楽しむ。【うごく力】

探索活動は好奇心の芽生えと捉えて、制止せずに見守ろう。

- 自分で全部出すことができた喜びを表情で保育者に伝えている。【人とかかわる力】

A児ができたことを言葉にして伝え、全部出すことを達成した満足感に共感していく。



この遊びの中での学びを支えたもの

【安全に過ごせる環境構成】

歩行が完成すると、安全面での留意点が増える。

- ・ 不必要な段差をなくす
- ・ 床におもちゃなどが散らばったままにしないようにする
- ・ 子供の手が届く場所に、ハサミや筆記用具など危険なものを置かない

これらのことに留意したことで、安全に探索活動ができた。

【探索活動の肯定的理解】

大人は探索活動を、「困らせるいたずら」として捉えがちである。しかし、探索活動は好奇心の芽生えである。A児の探索活動を肯定的に捉え、十分に受け止めたことが、さらなる活動につながっていった。

【保育者との信頼関係】

探索活動を受け止め、受け入れている保育者との信頼関係により、A児は探索活動を自ら進め、深めることができた。

先生方へ…



歩行が完成し始める頃になると、生活空間が広がり、興味・関心が高まってきた子供の「いいもの探し（探索活動）」が始まります。保育者が安全に留意しながら、この行為に温かく応答することにより、子供は、満足感を得たり新たな発見をしたりするようになります。

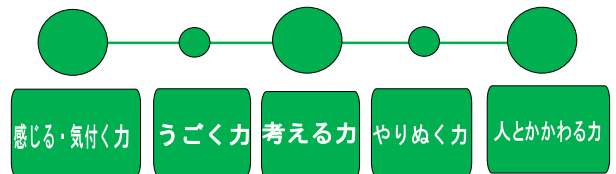
この事例ではカゴの中のものを全て取り出していますが、おもちゃや本などを握ったりつかんだりしながら取り出す行為の中で、手指の力が育まれていきます。中身を出すだけの遊びは、自分で入れて出すという遊びに広がり、道具を使う事へとつながります。また、保育室から園庭へ、そして、自然の広がる空間へと、興味の幅を広げ、「いいもの探し」に出かけることは、動く力も引き出します。

いたずらに見えるこの時期の探索活動を、家庭では禁止する場面も多いと思います。しかし、この探索活動を、自分の体を使いいろいろなことを試し、発見している姿と捉え、子供に十分楽しませたいものです。園・所においては、安全面に留意しながら、伸び伸びと遊びを楽しむことのできる環境を構成することが大切です。

事例5

1歳2か月
(0歳クラス)

水遊び こぼこぼ



【活動の様子】

A児は、水を入れたタライの中に座り、ニコニコしながら、保育者と一緒に水面をたたき、水しぶきが上がるのを見て歓声を上げて喜んでいる。時々保育者の顔を見上げ、ニコッと保育者が笑い返してくることを確認しては、繰り返し遊んでいる。

しばらくして、保育者がカップを下向きにして水中で少しずつ傾け泡を出してみると、A児はそれをじっと見ている。何度も繰り返すのを笑顔で見つめている。

保育者が、「Aちゃん、コポコポ出るの面白いねえ」と声をかけると、保育者を見上げてニコッと笑う。その後も、「ポコポコオ、コポコポコポ」と声を出して一緒に遊ぶ。

保育者が、水中で勢いよくカップを傾けてポコッと大きな泡を出すと、A児は目を見開きびっくりした顔で保育者を見上げる。保育者も「びっくりしたねえ。大きな泡だったねえ」とA児の驚きを言葉にすると、満足そうな笑顔を返してくる。

「どこから出るかなあ、ここかなあ」と声をかけながら、カップを動かして色々な場所で泡を出してみると、キッと口を結んだ真剣な顔つきで、出てくる泡を目で追っている。

保育者が手を止めると、A児は顔を上げて、「ああっ」と保育者を見つめる。

「どうしたのかなあ、あれ？出なくなっちゃった・・・」と困った顔を見せると、A児が手を伸ばしてカップを取り、水中で傾けようとする。

A児の手にそっと保育者の手を添えながら、一緒にコポコポと泡を出して見せると、大喜びで出てくる泡を見て、その後すぐに保育者の方を向いて、得意げな笑顔を見せる。

【遊びの中で育まれている力】

- 水を体全体で感じる。【感じる・気付く力】
- 保育者の姿を確認し、安心して遊ぶ。保育者と喜びを共感しながらさらに遊びを楽しむ。【人とかがわる力】

水の感触を気持ち良いと感じている様子。意識的にA児と笑顔で視線を交わすことによって、A児が感じている気持ち良さに共感していく。A児は、水の感触を楽しむとともに、水の不思議さを感じていると考えた。そこで、新しい気付きを促す遊びを提供することにした。

- 泡の不思議さを考える。【考える力】

泡が出て来て、水面に上がっていく不思議さを言葉で表現することにより、共感するとともに、泡を出すことを繰り返すことによって再現性を伝えたい。

保育者がA児の思いを言葉で表すことによって、A児が感じている不思議さを保育者も共感していると感じて、満足している様子。今度は、泡の大きさを変えることによって、新しい気付きを促そう。

- 今までよりも大きな泡が出てきたことが分かる。【考える力】

A児の表情の変化から、予想していたよりも大きな泡が出てきたことに驚いていることが感じられた。この気付きを言葉にして伝えることによって、A児の気付きを認めていく。

- 表情や視線で自分の思いを伝える。【人とかがわる力】

- 水中のカップを傾けると、泡が出ることに気付き、自分でしてみようとする。

カップを逆さまにして空気を保持したまま水中に入れて傾けるという動作は、A児にとっては難しく感じたため、手を添えることにした。

- 様々な動きを獲得する。

得意げな顔から、予想通りできた達成感を得ていると考えた。



この遊びの中での学びを支えたもの

【信頼を寄せる保育者との関わり】

保育者が、子供にとって安心して過ごすことができるような心の支えとなることで、子供が表情や視線で自分の思いを表出することができた。

【一人一人に応じた援助】

水に触れることや浸かることを怖がる子供もいれば、最初から物怖じせずに楽しむ子供もいる。水に対する興味や好奇心、恐怖心などの感じ方は、子供によって違いがある。

保育者が、A児の反応を見ながら、同じように楽しんだり思いに共感したりしたことで、A児の自らやってみてみたい気持ちが引き出された。A児は、水中のカップを傾けると泡が出ることに気づき、自分でやってみることで、カップをひっくり返すという手の動きを獲得するとともに、満足感を味わうことができた。

【環境に対する細かい配慮】

水は最も身近な自然素材であるが、危険も伴うことから、安全面・衛生面に留意し、タライには浅めの水を入れ、保育者と一対一で遊ぶということを大切にした。また、一人一人のタライを用意し、水と関わる時間と空間の確保をすることにより、子供が自分のペースでじっくりと水に親しむことができた。

先生方へ…



水面をたたいて水しぶきを上げる遊びを繰り返すことなどを通して、子供は模倣することを心地よく感じ、保育者と同じ遊びをする喜びを感じながら、基本的信頼感を獲得していきます。

ゆったりした雰囲気の中で、子供は泡に目を向け興味を示し、変化する現象に驚いたり、不思議に思い凝視したりしながら遊んでいます。そ

の中の保育者のちょっとした動きや声かけが、子供の心境を変化させています。そして、「突然出なくなった泡を出したい」という思いから、1歳児なりに予想し、カップへ手を伸ばすことになったのだと思います。

こういった言葉にならない表現や表情から子供の内面を読み取り、共感し、言葉を添えたり手を添えたりしながら遊びを共有することで、さらに保育者との信頼関係が深まっています。

言葉にならない思いを受け止め言葉で応答する繰り返しは、言葉の獲得につながります。語彙が増えていくことで、子供は、コミュニケーションの手段として自ら言葉を発するようになります。このような保育者の関わりにより、人との関係を築くコミュニケーションの基礎も育まれていきます。